



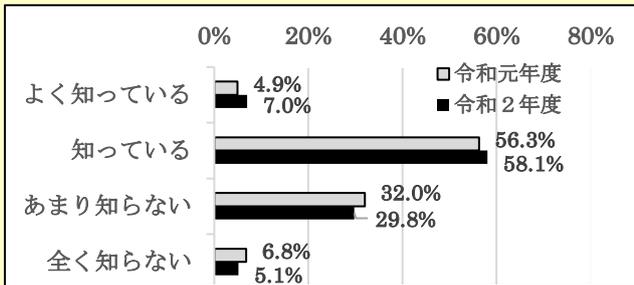
コミュニティ・スクールだより

向東地域連携コミュニティ・スクール充実のためのアンケート調査（小中学校）

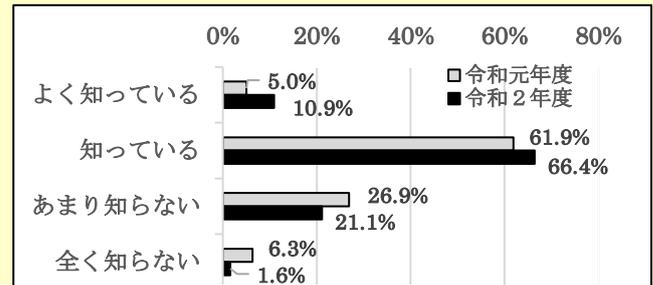
- 実施期日 令和2年11月25日～12月2日（小・中学校）11月25日～12月25日（地域）
- 回収率 小学校 70% 中学校 74%
- 回収数 地域 150名（サンボル尾道に来校された地域の方にもアンケートを実施）

【質問1】向東小・中学校が、向東地域連携コミュニティ・スクールとして取組や活動をしていることを知っていますか。

<小学校>



<中学校>

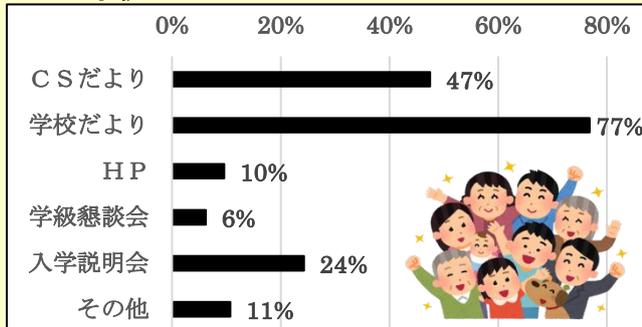


肯定的評価 小学校+3.9p, 中学校+10.4p
認知度が向上しました。

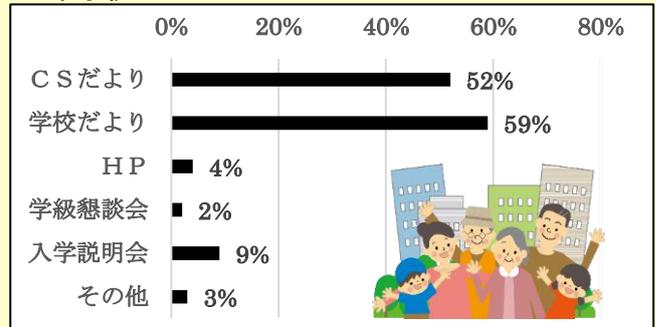


【質問2】質問1で「よく知っている」「知っている」と答えた方は、何で知りましたか。当てはまる箇所を○をしてください。

<小学校>

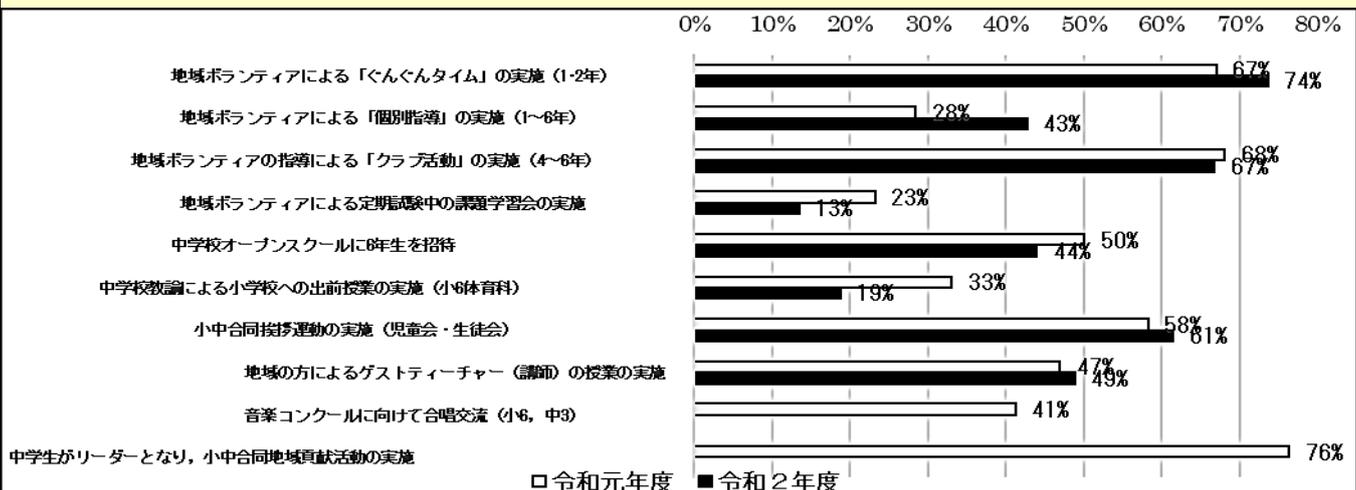


<中学校>

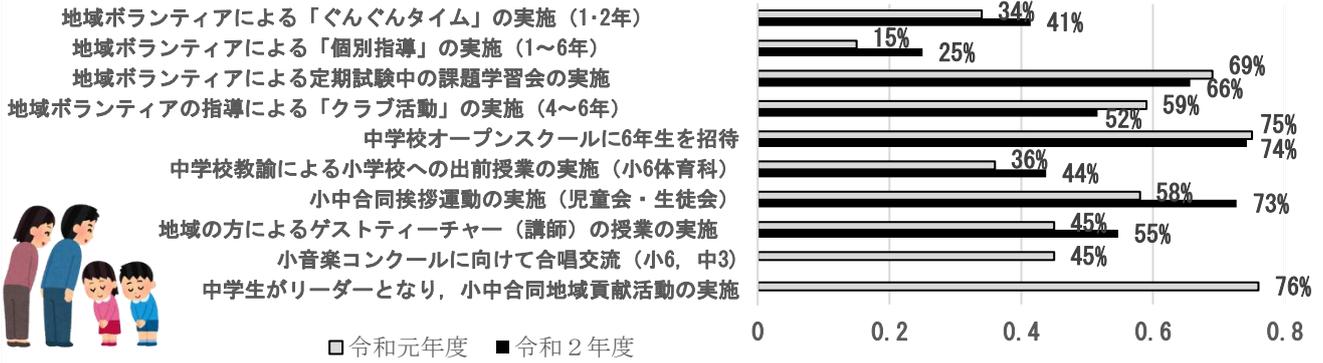


【質問3】向東地域連携コミュニティ・スクールとして向東小・中学校がどのような取組をしているか知っていますか。

<小学校>

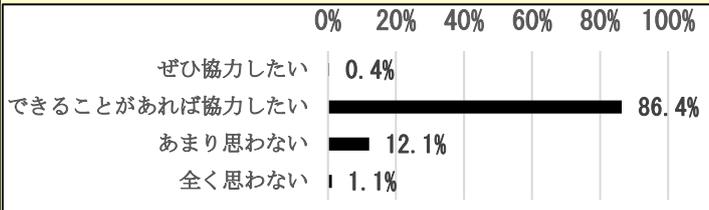


<中学校>

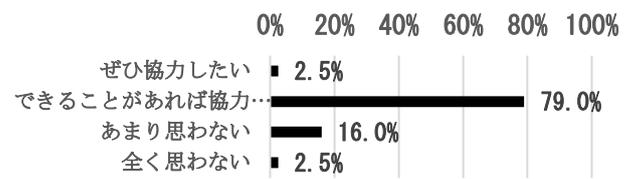


【質問4】学校の活動に協力したいと思われますか。

<小学校>



<中学校>



「協力したい」という保護者の割合・・・小学校 87%, 中学校 83%。
保護者の多くは、学校の活動に協力したいという思いをもたれています。



【質問5】向東地域連携コミュニティ・スクールがよりよく子供たちに育てていくために、学校と保護者・地域が協働して、どう取り組めばよいか、ご意見等あればお聞かせください。

【考察】

(小学校) 記入している保護者は、向東地域連携コミュニティ・スクールに対して関心があり、期待をしています。コミュニティ・スクールとしての情報をもっと知りたい、協力したいという思いがありました。

(中学校) 質問4で学校の活動に対して協力したいという肯定的な回答が8割以上であることから、今後も継続して取り組みます。そのために、いろいろな声に耳を傾け、学校と保護者・地域との協働の在り方を工夫していきます。

【まとめ】

<小学校>

昨年度に引き続き、保護者に対して、向東地域連携コミュニティ・スクールとしての取組が十分周知できていない実態がありました。しかし、学校だよりでの周知は効果が高いという結果から、今後も機を捉えて情報発信をしていくことが必要です。

また、CSだより・HP・入学説明会・学級懇談会などでも情報発信をしていきます。

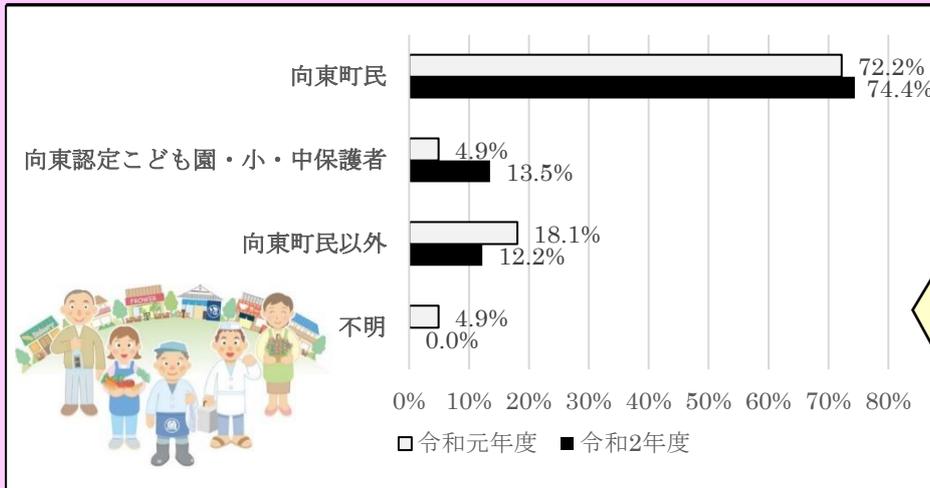
<中学校>

保護者に対して、向東地域連携コミュニティ・スクールとしての取組への理解が進んでいます。さらに、学校だよりやCSだよりにより取組の周知を図ります。

小中連携によるCSの有効性への理解度をより高めると同時に、9年間を見通した教育の充実を図ります。

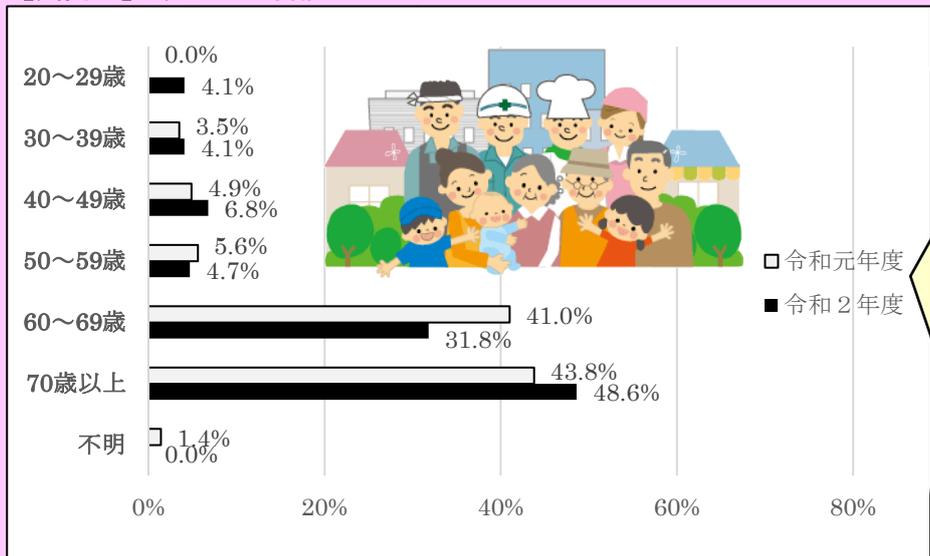
向東地域連携コミュニティ・スクール充実のためのアンケート調査（地域）

【質問1】 あなたの所属について



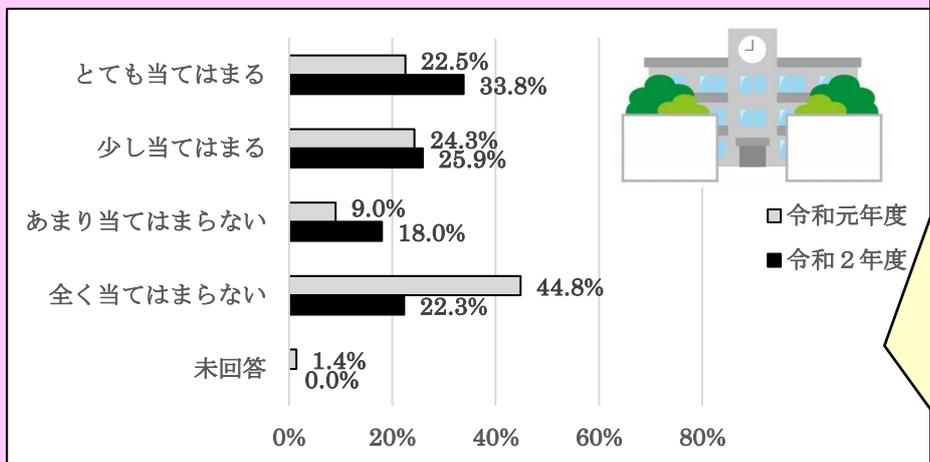
【結果・考察】
向東町の住民が74%強である。向東公民館の使用者は、地域住民が多数。

【質問2】 あなたの年齢について



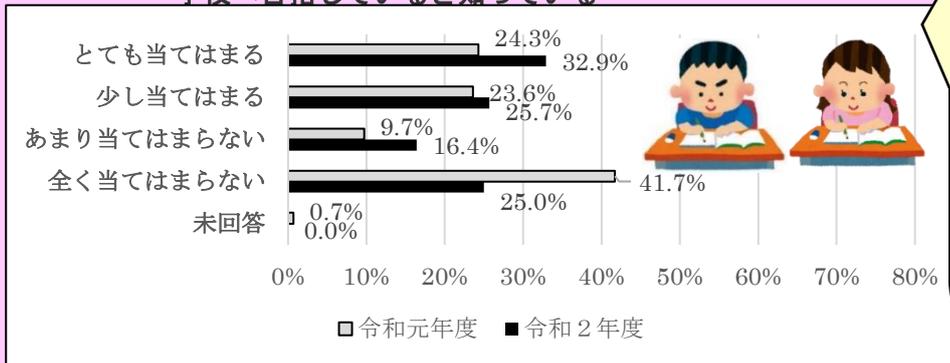
【結果・考察】
60歳～70歳以上の年齢の方の回答が80%強を示すのは、向東公民館（サンボル尾道）使用者年齢層であるということ。

【質問3①】 向東小・中学校がコミュニティ・スクールだと知っている



【結果・考察】
昨年度、知らない・あまり知らないの回答が53.8%と半数。今年度、よく知っている・知っているの回答が59.7%と半数を超えた。要因は、
・実績を残したこと、
・学校便り・CS便り・公民館便り等の配布
・学校支援ボランティア・ゲストティーチャー等の学校支援
・アンケートを実施したことも大きい。

【質問3②】 向東小・中学校が「学校と地域が協働し、子供の未来を拓く」学校へ目指していると知っている

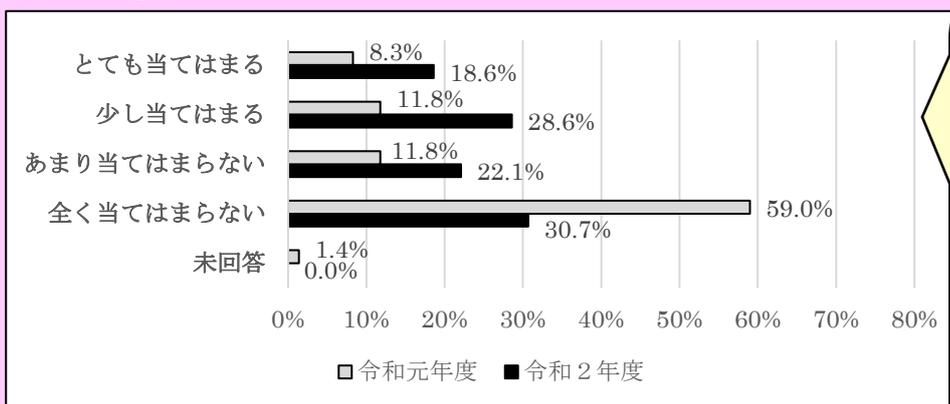


【結果・考察】

今年度は、知っているの回答が58.6%と半数を上回る。

学校教育目標が、地域住民に周知されてきている。学校がめざしていることが住民に認知されれば、協働して子供の豊かな育成が期待できる。

【質問3③】 コミュニティ・スクールとして活動していることを知っている

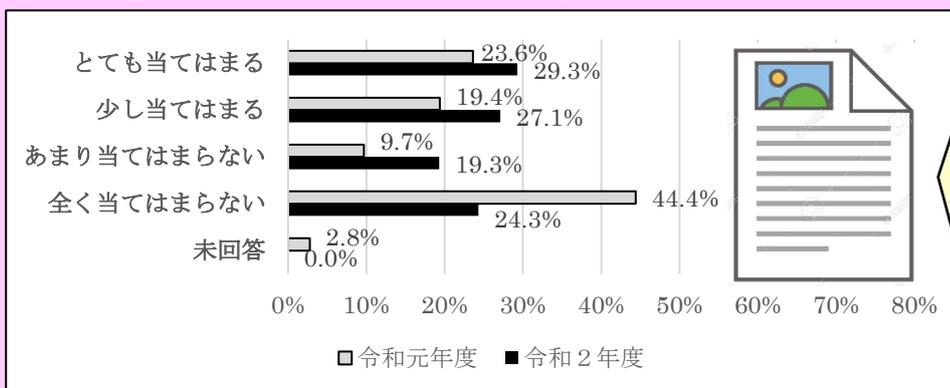


【結果・考察】

今年度は、よく知っている・知っているの回答が56.4%と認知度が上がっている。

CSとして、夏休み期間中に小学校のトイレ清掃、2学期に不審者情報に伴い見回りを地域住民に呼び掛け実施したことが認知された大きな要因と考える。

【質問3④】 「コミュニティ・スクール便り」を読んでいる

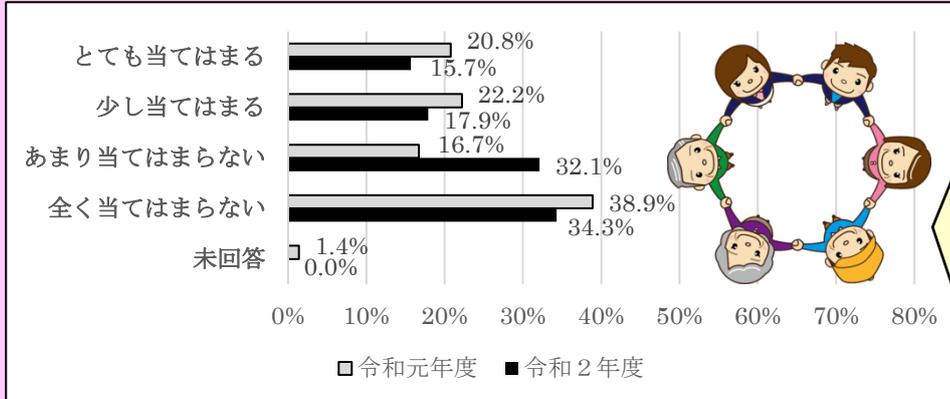


【結果・考察】

昨年度、7割以上の住民が読んでいなかった。

今年度は、5割を越え、読む人が増えたが、今一度読んでもらう魅力あるお便りの工夫が必要かと考える。

【質問3⑤】 向東小・中学校の活動について積極的にお手伝いをしたい



【結果・考察】

昨年度、6割近い人は、学校のお手伝いに消極的だった。

今年度は、お手伝いをしたいと、お手伝いをしたくないは半々であった。地域住民が子供達のために労を惜しまないようにするには、どうすれば良いか考えてみないといけない。

【まとめ】

3年間で、コミュニティ・スクールについての周知や認知はされてきている。今後の課題として、学校・地域は何がどう期待され、何がどう変わっていかねばならないのか具体的にそして細やかに指標を示して、地域と学校が協働していかねばならない。